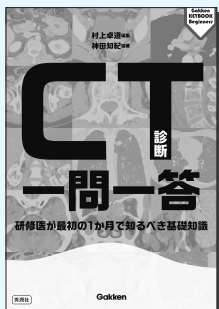


CT 診断一問一答

研修医が最初の1か月で知るべき基礎知識

編集：村上卓道（神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野）

編著：神田知紀（神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野）



発行：Gakken

2023年9月刊行

A5判・368ページ

定価：6,600円（10%税込）

◆ 本書の真の使い方：画像診断医が楽になるための本！？

本書の副題にある「研修医が最初の1か月で知るべき基礎知識」というワードから、「研修医のための画像診断本で、基本的なことが広く浅く書いてある本なのだろう」と、多くの人は想像することと思う。実際、研修医をメインターゲットにした本で、内容も概ね当たっている。「広く・浅く・ビギナーにやさしく・1冊で日常診療をカバーできるように」をコンセプトに、基本的なことがわかりやすく書かれている。ただし、内容は想像していたより若干詳しく、画像診断医には既に知っていることばかりで読むのに物足りないというわけで

は全くなく、むしろ診断専門医が読んでもブラッシュアップとして使える内容でもある。

本書が他の画像診断ビギナー向け医学書と異なる点は、Q & A形式で研修医が実際に質問しそうな疑問として抱きそうな内容を集めている点である。実際、臨床研修病院で勤務をしていると、放射線科をローテートする研修医に何度も同じ質問をされ、同じ返答や同じ解説をしていた。それは、臨床研修病院で勤務する以上、避けては通れない業務と思い込んでいたが、書籍で解説してくれているなら話は別である。堂々と「それはこの本に書いてあるよ」と言えるし、何なら今では、「放射線診断科のローテート期間中にこの本を1冊読んで！ そうすれば、当科で研修する以上の知識が手に入るよ」と、研修医に購入を積極的に勧めている。

加えて、巻末に付録として頭部・胸部・腹部のCT読影手順が載っており、これが私の推奨する読影法とかなり近いものであったので、この点についても、本書を活用することで一から説明する手間が省けることになった。研修病院の画像診断医の負担を軽減し、なおかつ研修の質も向上させてくれる、これこそが本書の真の使い方なのではないかと、個人的には考えている。

本書を執筆された神戸大学放射線科を中心とする先生方には本当に頭が下がる思いで、感謝の念に堪えません。

一宮西病院放射線診断科
木口貴雄